Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-07-30

CHILD HEALTH AND ECONOMIC DEVELOPMENT IN LAO PDR -AN EMPIRICAL STUDY ON FERTILITY, CHILD MORTALITY, CHILD NUTRITION STATUS AND SOCIAL CAPITAL

ALAY PHONVISAY

(Degree)
博士（経済学）

(Date of Degree)
2011-03-25

(Date of Publication)
2011-10-06

(Resource Type)
doctoral thesis

(Report Number)
甲5131

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1005131

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。

氏　　名	ALAY PHONVISAY
博士の専攻分野の名称	博士（経済学）
学　位　記　番　号	博い第 5131 号
学位授与の　要　件	学位規則第 5 条第 1 項該当
学位授与の　日　付	平成 23 年 3 月 25 日

【 学位論文題目 】

CHILD HEALTH AND ECONOMIC DEVELOPMENT IN LAO PDR -AN EMPIRICAL STUDY ON FERTILITY, CHILD MORTALITY, CHILD NUTRITION STATUS AND CIAL CAPITAL-（ラオスにおける子供の健康と経済発展―出生率、幼児死亡率、子供の栄養状態とソーシャル・キャピタルに関する実証分析―）

審　査　委　員

主　査　　教　授　駿河　輝和

教　授　太田　博史

教　授　松永　宣明

学位請求論文審査結果報告要旨

博士学位論文

論文内容の要旨および審査結果の要旨

氏　　名	PHONVISAY ALAY
学位の種類	博　　士（経済学）
学位授与の条件	神戸大学学位規程第５条第１項該当
学位論文の題目	CHILD HEALTH AND ECONOMIC DEVELOPMENT IN LAO PDR -AN EMPIRICAL STUDY ON FERTILITY, CHILD MORTALITY, CHILD NUTRITION STATUS AND SOCIAL CAPITAL- (ラオスにおける子供の健康と経済発展―出生率、幼児死亡率、子供の栄養状態とソーシャル・キャピタルに関する実証分析―)
審査委員	主査　教授　駿河輝和 教授　太田博史 教授　松永宣明

論文内容の要旨

健康は、国や個人の全体的な厚生水準を決める重要な要因の一つである。良好な健康は、子供にとって優れた学習能力を生み出し、成人にとっては生産性を上昇させる。逆に、健康状況が悪いと子供の成長に悪い影響を与え、劣った人的資本を形成することになり、貧困を悪化させることになる。子供のころに健康を害したことのある成人はそうでない成人に比べて相対的に所得が低いと言われている。これは、健康上の問題が学習能力を低下させ、子供の身体的成長に悪影響をもたらすためである。

ラオスの将来の発展を考えると、子供は国の生産的労働者、中堅あるいは指導者となってゆく。しかしながら、子供たちの未来は今日の成人の行動や政策に依存している。言い換えると、子供が能力を発展させ将来潜在能力を実現するための必要条件を現在において提供する必要がある。子供の正常な成長の必要条件の一つが子供の健康である。子供の健康の生成と保持に対して悪影響を与える多くの要因として、貧困、母親の健康、親の教育、健康に関連する環境（医者、看護婦、健康ボランティアの存在など）がある。

最近の 10 年においてラオスは顕著な経済パフォーマンスを達成しているが、健康部門や貧困における低いパフォーマンスは今なお同国の直面している重要な課題である。ラオスにおいて貧困は実質的に減少しているが、貧困者と非貧困者の格差は拡大している。十分な食料摂取のない子供は、多くの病気に対して脆弱であり、背が低すぎるあるいは体重が過少であるといった点で大きなリスクをもっているので、食料の貧困は、子供の健康に直接的な影響を与える。加えて、母親の健康はラオスのほとんどの女性にとって恵まれない状況にある。特に、地方に住む人々はそうである。妊婦死亡率は東南アジアにおいて最も高く、出生率の高さは同地域において第二位である。その上、子供の健康に関する 2 つの指標である、子供の栄養不良と幼児死亡率は同地域や世界において最も高い国の一つとなっている。

したがって、ラオスにおける子どもの健康を改善するためには、子どもの健康、貧困、母親の健康、親の教育及びその相互関係の包括的な研究が緊急に必要となっている。その上、さまざまな地域でこういった要因がどのように相互関係を持つかについてよりよい理解をするために、都市と地方間の違いを調べる必要がある。我々の知る限りでは、ラオスの子どもの健康に関する包括的な学術的研究はこれまで行われてこなかった。

この研究のギャップを埋めるために、この博士論文は包括的なアプローチを使って、ラオスについて子どもの健康の状況とそれに関連する問題を調べようとしている。より具体的に言えば、出生前健康、出生後健康、子どもの生存、健康的な成長のための栄養状況に関する問題を分析することによって健康な子どもを育てる全体的な過程をこの研究はカバーしている。その上、社会関係資本の子どもの健康に与える影響を調べており、地方共同体にとり非常に重要な問題を扱っている。この社会関係資本に関する分析は著者により 2009 年と 2010 年にラオス北部で集められたサーベイデータに基づいて行われている。上

に述べた特徴はこの研究のユニークでオリジナルな貢献と考えることができる。次に、各章での分析の概要を述べていく。

第一に、出産前の健康の問題に関して、母親の健康に注目して分析している。出生前の健康の代理変数として15歳から49歳までのラオス女性の出生数の決定要因を調べている。特に注目している要因は、子どもの死亡、親の教育水準、避妊方法の知識、家計の資産、親の職業、居住地域である。実証的な分析は、2005年のラオ・リプロダクティブ・ヘルス調査（LRHS-2005）からのデータを基にしている。推定の結果、すべての地域で女性の教育は出生数の減少に大きな影響を持っていた。このような影響はいろいろな経路を通じて生じている。一つには母親の賃金や関連する機会費用を上昇させる、もう一つには健康に関連する情報を有効に使用することができるといった経路である。子供の死亡の出生数上昇への効果は、将来の労働力の確保、老後の保障（特に地方において社会保障システムは欠如している）に対する母親の合理的な行動の結果と考えることができる。

第二に、出産後の子供の健康に関して、5歳以下の幼児死亡率に影響を与える要因に焦点を当てて研究を行っている。要因としては、出生の順番、親の教育、健康管理に関する知識、医療に携わる人の数（医者や看護婦）といったものを考えている。この実証分析は、前研究と同じく、2005年のラオ・リプロダクティブ・ヘルス調査（LRHS-2005）からのデータを使用している。推定の結果、出生の順番と出生時の母親の年齢は子どもの生存に重要な影響を与えていた。これら 2 つの要因は、家族計画プログラムを通して簡単に改善できることである。その上、教育は子どもの死亡率を減少させるのに基本的なものであり、特に、初等教育、前期中等教育を含めた基礎水準の母親の教育が重要となっていた。健康を取り巻く環境に関しては、医療従事者の数は子どもの生存率を改善するのに有意な貢献をしていることは明らかであり、特に、地方ではそうであった。子どもの死亡に影響を与える他の要因としては、家族の資産、安全な飲み水へのアクセスがあった。

最後に、健全な成長のための子どもの生存と栄養状況に関連する問題として、地域格差を考えながら短期と長期の子どもの健康状態に影響を与える要因にこの研究は焦点を当てた。特に、子どもの栄養状況に影響を与える要因として次のような要因を考えている。すなわち、母親の年齢、親の教育、貧困水準、健康関連の仕事の従事者（医者、看護婦、保健ボランティア）、きれいな飲料水へのアクセス、トイレの状況などである。分析において、子どもの栄養状態の代理変数として、背の低すぎることと体重が過小であることを使用している。背の低すぎることは長期の子どもの健康状況のための指標であり、体重が過小であることは短期の子どもの健康状況のための指標である。実証的分析は、2002年3月から2003年2月までに実施されたラオス支出・消費調査（LECS3）を使用している。実証分析の結果、一人当たり消費が短期の子どもの健康に有意な影響を与えていた。保健従業者の存在は、子どもの健康改善に重要な影響を与えており、特に長期の子どもの健康に重要であった。加えて、母親の教育の役割は子どもの栄養状況にとって非常に大きい。

前述の研究により子どもの栄養状況に関するかなりよい結果を得たが、子どもの栄養状況に密接に関係している母親の身体的情報データが欠如しているという大きな制約が実証分析にはあった。ラオスにおける子どもの栄養状況の理解を高め、分析の強化をするために、ウドムサイ県の3つの村でフィールド調査を行った。3つの村は、ホムサイ村、マイナタオ村、ナサヴァン村で、母親の身体的情報と同時に、社会関係資本の子どもの栄養状況への影響を調べるための一次的データも収集した。特に、母親の身体的情報（身長）と社会関係資本（村における血縁ネットワーク）のデータは通常、国レベルの包括的調査では得られないものである。実証分析結果から、社会関係資本にとって基本的と考えられる血縁ネットワークは地方社会の人々にとって経済的あるいは健康ショックを和らげるメカニズムの一つを提供していることがわかった。言い換えると、血縁ネットワークは、子どもの健康状況の改善、特に長期の子どもの健康に有意な影響を与えている。

要約すると、この論文の分析結果は、母親の教育、特に基礎教育は研究がカバーしている全ての段階で母親の健康や子どもの健康の最も重要な社会経済的な決定要因となっている。教育は母親が将来の家族計画に重要な健康に関する情報（避妊の方法など）を効果的に使用することを助ける。同時に、教育は病気を予防する、病気の自己認識を高めるための保健情報の有効的な使用を通して子どもの死亡率を減少させるのに重要な役割を演じる。そしてこのことが、子どもへの需要を低くする結果へと結びついている。母親の教育は、また様々なプログラムを通じて供給される重要で関連する保健情報を利用することにより子どもの栄養状況を改善するのを助ける。

他の重要な社会経済的な決定要因として家計の所得を生み出す能力がある。この要因は、政府の貧困削減プログラムの中心となっている。貧困、特に食料の貧困は、子どもを病気に対しひいては死亡に対して脆弱にし、短期の子どもの健康に直接的に影響を与える。もし子どもが長期的に栄養不良である場合には、子どもの長期的な健康に影響を与えざるを得ない。貧困の削減に加えて、保健関係従事者（医者、看護婦、保健ボランティア）の量と質は長期的に子どもの死亡率を減らし健康を改善するために決定的に重要である。保健関係従事者は直接的に母親に保健関連の情報を与えて子どもの数に影響を与えるだけでなく、子どもの死亡率を減らして出生数を減らす働きもある。他の側面では、社会関係資本、特に血縁ネットワークは、外部からの援助が限られている地方において子どもの健康を保持するために重要な要因となっている。

研究の結果に基づいて、次の 4 つの政策提案がなされている。1、健康に関する教育と成人識字教育の拡大、2、保健従事者の数と質の改善、3、子どもの健康に関連した貧困の削減、4、開発における社会関係資本の役割に対する認識の必要性

審査結果の要旨

Alay PHONVISAY 氏の論文は、経済の成長とともに改善されてはいるが、いまだに保健部門に大きな課題を抱えているラオスに関して子どもの健康問題を初めて包括的に研究した極めて貴重な分析をしている。論文は、出生数、幼児死亡率、子どもの栄養状態という 3 つの問題を扱っている。子どもの健康は、貧困、親の教育水準、母親の健康状況、健康に関する環境、社会関係資本といった要因と相互に関係しており、子どもの健康を改善するためにはこういった要因の分析が必要である。しかし、ラオスに関してこれまでこの問題を包括的に扱った研究はなく、そのギャップを埋めようとしたのがこの論文である。この論文は、次のようなオリジナリティと貢献が認められる。

1．2008 年と 2009 年の 2 回にわたって、ラオス北部の 3 つの村で現地調査を行い、政府の公式調査では欠如していた母親の身体的情報及び社会関係資本のデータを収集し、子どもの栄養状況の分析に使用したことは大きな貢献である。このデータの収集により、実証研究において、母親の身体状況をコントロールした分析を行うことができ、また血縁ネットワークが子どもの健康に影響を与えていることを明確に示している。
2．同じサーベイ調査により村における保健所や保健関係従事者の状況及び役割を聞き取りにより示し、また村における健康に関連する慣習を具体的に示した。
3．入手がかなり困難な 2 つの公式調査データのラオ・リプロダクティブ・ヘルス調査、ラオス支出と消費調査の個表により、出生数、幼児死亡率、子どもの栄養状況の分析を行い、保健関係従事者の存在、数が幼児死亡率減少や子どもの栄養状況改善に大きな影響を与えていることを、おそらくラオスで初めて数量分析により示した。
4．母親の基礎教育が出生率の低下、幼児死亡率の低下、子どもの栄養状況の改善にきわめて重要であることを、上述のデータの個表を使用して、明確に提示した。また、ラオ・リプロダクティブ・ヘルス調査には、所得や資産のデータがないという欠点があるが、家の屋根、壁、床の状況、ラジオ、テレビの所有状況から資産データを作成して分析に導入した点も貢献といえるであろう。

この様に非常に貢献の大きい研究ではあるが、データの制約とラオスにおける研究の蓄積の少なさのために今後の課題も残されている。

1．ラオス北部のサーベイ調査により聞き取り調査を行うとともに数量分析を実施して、社会関係資本の影響の有意性を示したことは、大きな貢献である。しかし、ラオスは高地と低地、北部と南部、道路アクセスの違いなどにより状況が異なっている可能性があり、今後、より広い地域で分析を行えば、とりまく社会環境の違いが健康に与える影響がより明確になると予想される。
2．保健関連従事者の存在、数、質などが子どもの健康に影響を与えることを数量的に明確にしたことは非常に価値が高い。しかし、保健関連従業者の数や質についてより正確な健康への影響が推定できれば、政策提案としてより効果があると考えられる。

しかし、こういった課題はこの論文の範囲を超えるものであり、なんらこの論文の価値を損ねるものではない。論文はオリジナリティの高いものであり、当該研究者は今後独立して研究してゆくための高い研究能力を示しており、博士（経済学）に値すると判断した。

平成 23 年 1 月 21 日

主　査　　駿　河　輝　和

副　査　　太　田　博　史

副　査　　松　永　宣　明